

環境再生計画の推進

県は環境再生計画に掲げられた施策の推進に向けて昨年度から実施スケジュールに基づいた検討を始めたところであり、「自然再生」では植樹による森林域整備に向けた試験植樹の実施、「地域の振興」では県以外の実施主体における跡地活用の促進に向けた全国公募提案者への事業化の働きかけ、「情報発信」では浸出水処理施設の一部における資料展示を行いました。

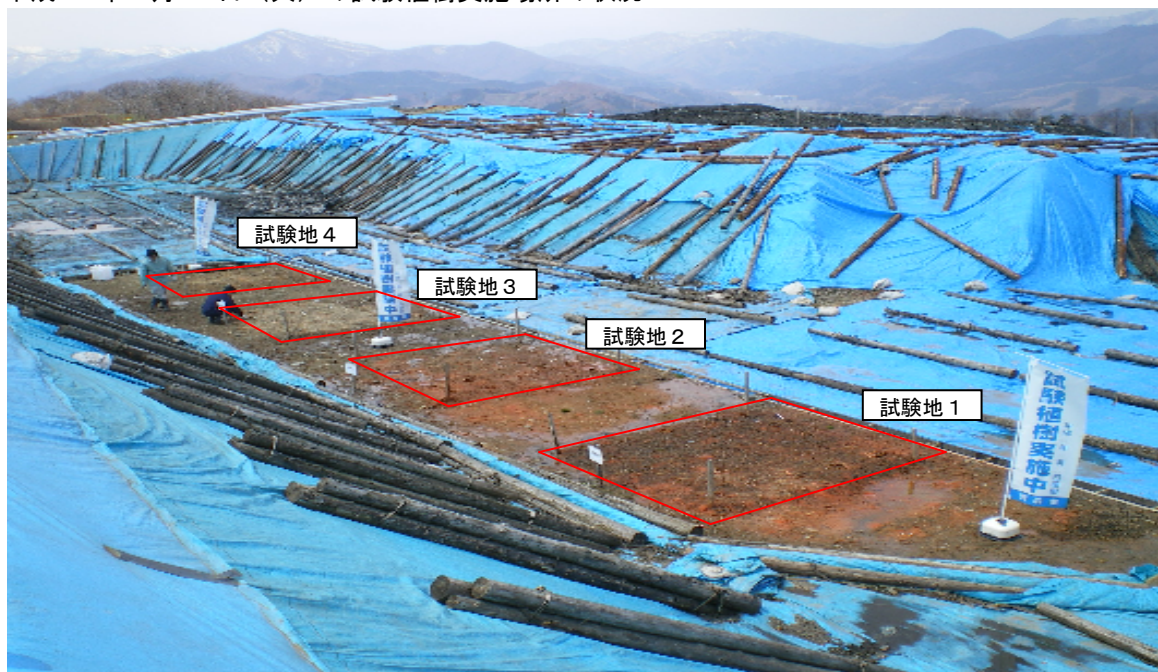
今年度は、昨年度から始めた検討を引き続き行うとともに、実施スケジュールに基づき新たな施策の検討に着手します。

1 自然再生

市民参加による植樹活動に向けた機運の醸成を図るため、昨年 10 月に実施した試験植樹の状況を県HPで紹介しているほか、試験植樹の実施を知らせるのぼり旗を試験地に設置しました。

今年度も現場内の植栽可能な地山確認済エリアにおいて現場内の土壌を活用した試験植樹を実施し、今後の本植栽計画の検討に役立てていくこととしています。

平成 23 年 4 月 26 日（火）の試験植樹実施場所の状況



○試験地 1

条件 ローム層と軽石層の混合
施肥あり

・土壌環境

軽石層と肥料が混合され、試験地の土壌の量が多いため、試験地が周囲より若干高い状態。

土壌は適度に湿潤しており、現在のところ排水が良好と見られる。

・苗木の状態

26本中、積雪により幹が折れたものが9本見られる。

幹が折れていないもの17本のうち16本に新芽が見られる。

平成 23 年 4 月 26 日（火）の試験植樹実施場所の状況



○試験地 1

ハウチワカエデの新芽



○試験地 2

条件 ローム層と軽石層の混合
施肥なし

・土壤環境

軽石層を混合しているが試験地は周囲と同等の高さ。

土壤に大量の水を含んだ状態で水たまりが見られる。排水が劣悪。

・苗木の状態

25本中、積雪により幹が折れたものが9本見られる。

幹が折れていないもの16本のうち15本に新芽が見られる。



○試験地 2

ハウチワカエデの新芽

平成 23 年 4 月 26 日（火）の試験植樹実施場所の状況



○試験地 3

条件 ローム層単独
施肥あり

・土壤環境

試験地は周囲と同じ高さ。

法面と排水溝に近いエリアが若干湿潤した状態。その他は若干乾燥した状態。排水が良好と見られる。

・苗木の状態

26本中、積雪により幹が折れたものが7本見られる。

幹が折れていないもの19本のうち18本に新芽が見られる。



○試験地 3

ハウチワカエデの新芽



○試験地 4

条件 ローム層単独
施肥なし

・土壤環境

試験地は周囲と同じ高さ。

法面と排水溝に近いエリアが若干湿潤した状態。その他は若干乾燥した状態。排水が良好と見られる。

・苗木の状態

26本中、積雪により幹が折れたものが8本見られる。

幹が折れていないもの18本のうち17本に新芽が見られる。

平成 23 年 4 月 26 日（火）の試験植樹実施場所の状況



○試験地 4

ブナの新芽

2 地域振興

東急建設(株)による現場跡地の利活用提案である「資源循環型エコアグリカルチャー」についての同社、田子町及び県の三者による初めての協議を 4 月 20 日（水）に行いました。

協議においては、バイオマスプラントによる水素製造と施設園芸を行う先行事例の現状と見通し等についての説明を受けた後、ブルータワーシステムについて、原料として使用することが可能なバイオマスの種類や確保の方策、製造された水素の販路、施設園芸の仕様の決定に必要な情報の収集、事業の実施主体となる複数の関連事業者間による連携・協働のあり方等、様々な検討課題が出され、今後も引き続き協議を行うこととされました。

また協議後には田子町の不法投棄現場の調査を実施し、現場の地形やプラントの設置場所等の活用可能なエリアの確認等を行いました。

3 情報発信

浸出水処理施設の稼働期間内における資料展示・公開に向けて、県境不法投棄事案の概要や原状回復事業の内容を紹介するパネルやこれまでの環境学習に係る児童・生徒のアンケート集を作成・展示し、今後は現場見学会で活用することとしています。

今年度も引き続き情報発信に向けた各種資料の体系的整備をはじめ、県以外が実施主体となった資料展示・公開についての検討を行うほか、事業継承案内板の設置、ウェブアーカイブの公開、学校教育への活用についての検討を始めることとしています。

浸出水処理施設における展示の様子



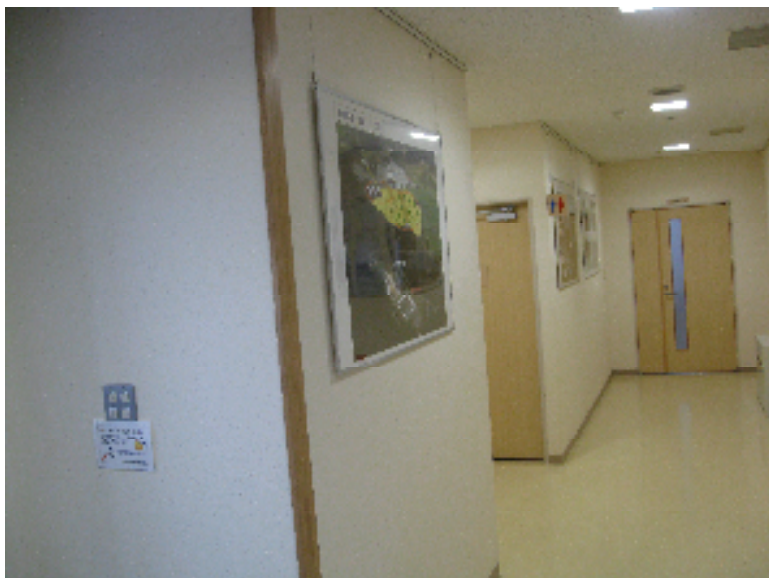
○玄関側から管理事務室方向を見たパネル展示の様子です。

浸出水処理施設における展示の様子



○パネルの種類

- ・「平成 12 年 10 月県境不法投棄現場の状況」
- ・「廃棄物の捨てられ方」
- ・「廃棄物の種類」
- ・「汚染拡散防止対策遮水壁の設置」
- ・「撤去作業の流れ①」



○パネルの種類

- ・「撤去作業の流れ②」
- ・「平成 22 年 6 月県境不法投棄現場の状況」
- ・「環境再生・現場イメージ図」



- 管理事務室側から玄関方向を見たパネル展示の様子です。

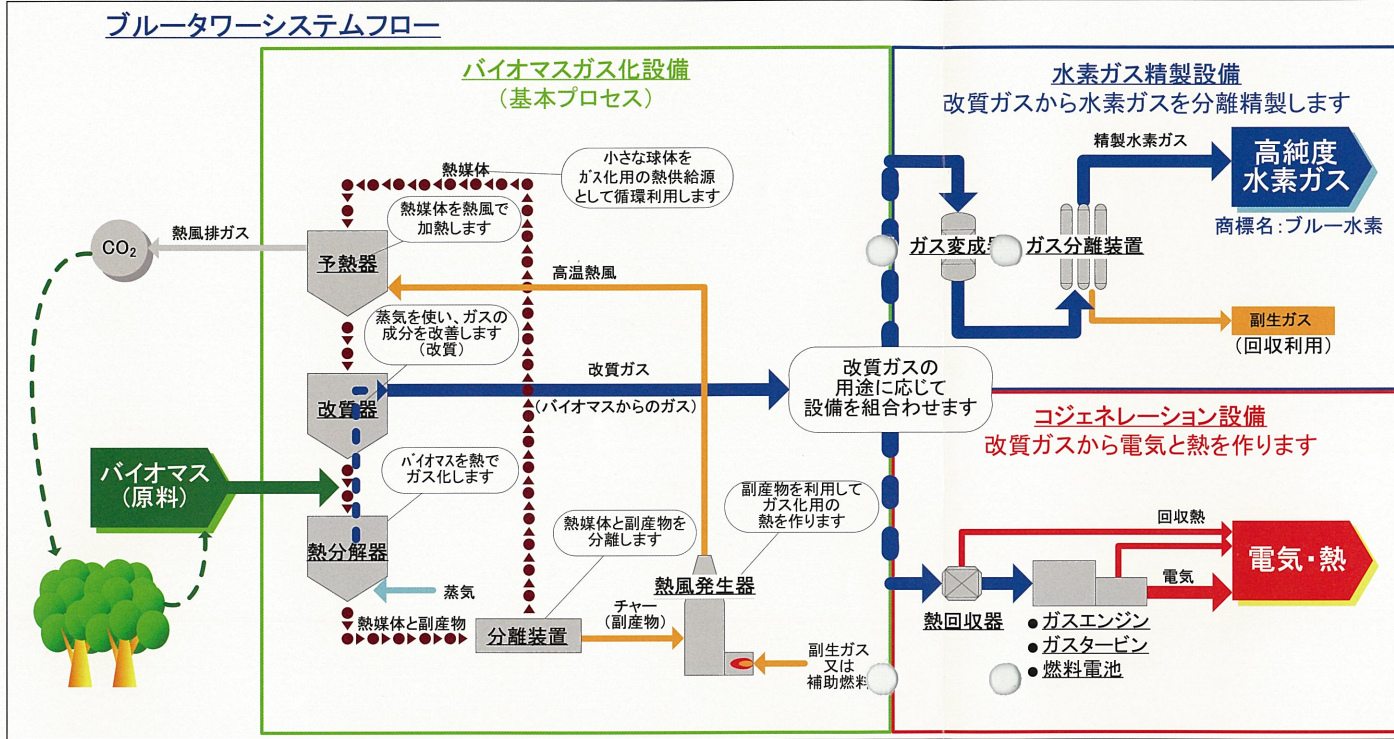
持続可能型地域社会への4つのキーワード

ブルータワーシステムの特徴

- Biomass** 再生可能でカーボン・ニュートラルのバイオマスを有効利用し、持続可能な社会を築き、環境保護に貢献します。
- Local** 地域のエネルギー供給・事業システムで、地域産業・経済・雇用の活性化に貢献します。
- Utility** 小さな設備ユニットで、新産業 & 新エネルギー創出に大きな効果をあげます。
- Energy** 水素・電力・熱により、新時代のエネルギーシステムを創出します。

- 完全カーボンニュートラル(化石資源不要)なエネルギー製造システム
- 種々のバイオマスにおいて少量から成立する小規模分散型が可能
- 低い運転圧力でシンプルな装置構成なので運転に高度な技術は不要
- 水蒸気雰囲気下のガス化による有用な改質ガス組成

ブルータワーシステムフロー



木質バイオマスガス化の参考例

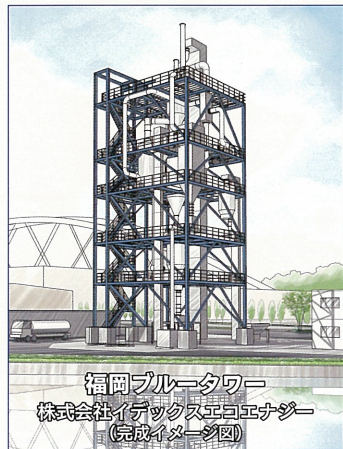
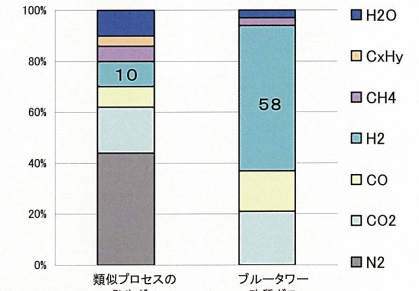
◆主要部運転条件

予熱器	1000℃	大気圧
改質器	950℃	大気圧
熱分解器	550℃	大気圧

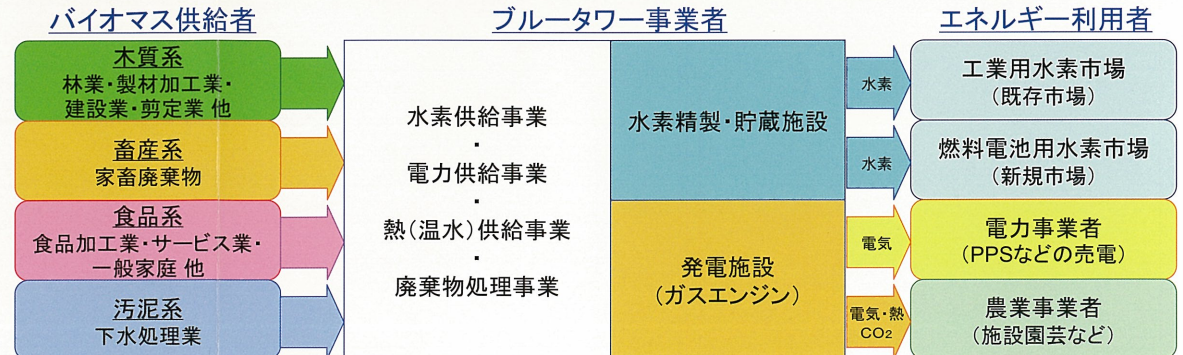
◆物質収支

処理量	15t/日 (乾燥基準)
改質ガス量	21t/日 (含水率30%)
高純度水素ガス製造量	18,000 Nm ³ /日
発電量	7,200 Nm ³ /日 出力570kW

◆発生ガス組成



事業内容



－ 会社概要 －

《社名》
株式会社 日本計画機構
(略称: JPO)

《代表取締役》
堂脇直城

《法人設立》
昭和50年(1975年)

《資本金》
3億2503万円(平成22年6月末現在)

《主要株主》
堂脇直城 / 相村建設 / 八木建設
ハイドロネット / 三菱UFJキャピタル / 八十二キャピタル
ニッセイ・キャピタル / 福田組 / 芙蓉総合リース / 二宮
ウエルインベストメント / 公共建物
インスパイア・テクノロジーリソース・マネジメント
ネオステラ・キャピタル / リソなキャピタル
MUハンズオンキャピタル / 安田企業投資
第一生命保険 / 野村リサーチ・アンド・アドバイザー
大和企業投資 / コラボ産学官
(敬称略)

《取引銀行》
三菱東京UFJ銀行 新丸の内支社
みずほ銀行 神谷町支店
東京東信用金庫 四谷支店

東京都千代田区紀尾井町3-20 紀尾井町鶴屋ビル4階
TEL : 03-3234-1551 FAX : 03-3239-3240
URL <http://www.jpo-net.co.jp/>

BLUE PROJECT

for Sustainable Society

株式会社 日本計画機構
Japan Planning Organization Inc.